

司式:中川 真明  
奏楽:吉田千鶴子

前奏:「来ませ、聖霊、主なる神よ」(D. ブクステフーデ)

招詞:真理の霊が来ると、あなたがたを導いて真理をことごとく悟らせる。(ヨハ16:13a)

讃美歌:こどもさんびか4(『21』6「つくりぬしを賛美します」)

交読詩編 133 篇

01 【都に上る歌。ダビデの詩。】見よ、兄弟が共に座っている。なんとこの恵み、なんとこの喜び。

02 かぐわしい油が頭に注がれ、ひげに滴り/衣の襟に垂れるアロンのひげに滴り

03 ヘルモンにおく露のように/シオンの山々に滴り落ちる。シオンで、主は布告された/祝福と、とこしえの命を。

朗読聖書:使徒言行録2:1-8

◆聖霊が降る

01 五旬祭の日が来て、一同が一つになって集まっていると、

02 突然、激しい風が吹いて来るような音が天から聞こえ、彼らが座っていた家中に響いた。

03 そして、炎のような舌が分かれ分かれに現れ、一人一人の上にとどまった。

04 すると、一同は聖霊に満たされ、「霊」が語らせるままに、ほかの国々の言葉で話した。

05 さて、エルサレムには天下のあらゆる国から帰って来た、信心深いユダヤ人が住んでいたが、

06 この物音に大勢の人が集まって来た。そして、だれもかれも、自分の故郷の言葉が話されているのを聞いて、あっけにとられてしまった。

07 人々は驚き怪しんで言った。「話をしているこの人たちは、皆ガリラヤの人ではないか。

08 どうしてわたしたちは、めいめいが生まれた故郷の言葉を聞くのだろうか。

### 祈禱

愛と恵みに富みたもう父なる御神さま。あなたの尊き聖名を賛美いたします。どうぞ御国を来たらせてくださいますように。

聖霊降臨日の今朝、私たち一人ひとりの名前を呼んで教会へと集めてくださり、またライブ配信をとおして共に礼拝をお献げできます幸を心より感謝申し上げます。特に今日はペンテコステ・花の日・こどもの日を覚え、春の全体礼拝として、小さな子供から大人まで共に集って礼拝をお献げできますことを重ねて感謝申し上げます。教会学校に通う子供たち、保護者の方々から神さまの愛と恵みに満たされ、また共同体としての教会の豊かな交わりに加えられ、大切な肢として繋がっていくことができますように祈ります。これからの交わりの上に、神さまの恵みと祝福とが豊かにありますように祈ります。

私たちは先週の主の日、101年目を迎えた信濃町教会の創立記念日を感謝し礼拝をお献げしました。多くの先達が篤い思いを持って福音宣教のために、シャロームのために、お働きになってこられたことを想起しつつ、これからの教会の新たな百年の歩みについて思いを馳せる機会を与えられました。感謝です。顧みます時に、私たちの歩みは神さまの想いから離れてしまったり、この世に流されるものであったり、あるいは自己中心的なものでありました。私たちがいかに弱く小さいものであるか、改めて思い知らされました。しかし、こんなに弱く小さな私たちをも“良し”とされ、

愛してくださり、生かしてくださり、導いてくださる神さまの恵みと憐れみに感謝いたします。悔い改めて、新たなスタートを切ることができますようお導きください。

本日、与えられました二人の説教者を感謝いたします。み言葉の取次ぎをしてくださる大谷牧師、佃牧師の上に聖霊が下り、み言葉を大胆に語らせてくださいますように。神さまの恵みと祝福とが豊かに与えられますように祈ります。また説教に与る私たち一人ひとりの心を開き、み言葉の種をしっかりと受け止め、それが豊かに実っていきますようにお導きをお願いいたします。

東日本大震災で被災した方々のために祈ります。震災から14年と3カ月経ちましたが、今もなお、悲しみや苦しみの中にある方々がたくさんいらっしゃいます。また、東京電力福島第一原子力発電所の事故により故郷を奪われた方々、放射能汚染の中で暮らさざるを得ない方々もたくさんいらっしゃいます。能登半島地震や豪雨などの災害で被災なさった方々のために祈ります。その方々の上に、神さまの御慰めとお支え、励ましがありますように。そして、隣人である私たちが、その方々のことを覚え、共に生きていこうという思いを込めて、為すべき支援を行っていくことができますように、神さまの導きをお祈りいたします。

パレスチナやウクライナ、ロシアでは今もなお戦闘が続いており、世界各地で様々な厳しい状況が見られます。一人ひとりの命や生活が守られ、人権が重んじられ、主の平和シャロームが実現しますように。私たちひとりひとりが希望をもって平和を実現する者として歩むことができますように。イエスさまはこの世で弱い立場にある方々の中に進んで入っていらっしゃり、共に歩まれました。私たちにも弱い立場にある方々、差別や抑圧の中にある方々と共に歩み、連帯して行く力をお与えください。

今日の礼拝を覚えながらも、様々な事情で礼拝に与れなかった方々の上に、神さまの特別な御顧みをお祈りいたします。

溢れる感謝と願いとを尊き主イエス・キリストの聖名によってお献げいたします。アーメン。

教会学校教師就任式

賛美:“来たれ聖霊よ” 聖歌隊

子どもへの説教「ふしぎな風」

大谷昌恵

…《音声が開き取れず、以下は要約です》…

今日、信濃町教会では、こどもの日、花の日礼拝として大人と子供と一緒に礼拝をお献げしていますが、もう一つ大切なテーマがあります。それはペンテコステ・聖霊降臨日というお祝いの日です。

ペンテコステというのは、数字の「50」という意味ですけど、何から数えて50かというと、それはイースター、教会学校のお友だちはイースターを覚えているかな？イースターって何の日でしょう？そう、イエスさまが十字架にかけられて、3日後にご復活をされた日です。このご復活のイースターから50日目今日のペンテコステなのです。

イエスさまはご復活をされてからしばらくの間はこの地上でお弟子さんたちと一緒に過ごしておられました。そして、その後、天に昇られます。イエスさまがご一緒だった時は、お弟子さんたちもイエスさまが神さまのことを教えてくださっていたので安心していました。けれども、イエスさま

まが天に登られて、お姿が見えなくなるとお弟子さんたちはとても不安になってしまいました。それで、みんなで集まって毎日一緒にお祈りをしていました。

イエスさまは天に昇られる前に、“もうすぐ聖霊が下ってくるから、それを待ちなさい”とお弟子さんたちに仰っていました。だから、お弟子さんたちはその言葉を信じて、その聖霊が降ってくる日をみんなで祈りをしながら待っていました。そうして御復活から 50日目のこの日、特別なことが起きました。突然、“ビュッ”というすごい風が吹くような音がして、炎のような舌が、分かれ分かれに、それぞれのみんなの頭の上に出てきたのです。

お弟子さんたちが祈っていた家の周りにいた人たちも、すごい風の音にびっくりしてみんな集まって来ました。そして、家の中に入ってみるとそこに居るイエスさまのお弟子さんたちが、みんなそれぞれの国の言葉で、イエスさまはどんなに素晴らしいことをなさった方か、今までして下さったことを話していたのです。

イエスさまのお弟子さんたちは、今までは自分たちが話しているガリラヤ地方の言葉で話をしていましたが、その言葉はほかの人たちには分かりづらい言葉でした。ところがこの日、その風から炎のような舌が現れてみんなの上に触れた後、それぞれの国、世界中の国の言葉でイエスさまのことを話し出したのです。

この時は『五旬祭』というお祭りに日で、エルサレムに世界中いろいろな所からたくさんの方が集まっていました。今まではお弟子さんたちの話す言葉をなかなか理解することができなかつた、わからなかつたのですが、この時はイエスさまがどんなに素晴らしい方か、みんなにも、全ての人にもよく分かりました。何故なら自分たちが分かる言葉でお弟子さんたちは話してくれていたからです。

「風」という言葉は「神さまの息」という意味も持つ言葉です。そしてそれは聖霊のことも表す言葉です。聖霊がそれぞれの人のところに向かったことでみんなが神さまの愛に充たされて、イエスさまのすばらしさを知って、イエスさまを信じるようになりました。そして、みんなで集まって神さまのことをお話ししたり、お祈りをしたりするようになりました。だから、それが今の「教会の始まりの日」と言われています。それで、ペンテコステは“教会のお誕生日”とも言われているのです。

聖霊は神さまから頂けるもっとも素晴らしいプレゼントだと言います。私たち人間の力だけではできないことも聖霊の力が神さまから与えられることのできるようになります。

聖霊はイエスさまを信じる私たちの一人一人注がれています。“こんなことはできない”と思うことや、“困ったなあ”と思うことも、またそれ以外にも、神さまのお力が必要だと思う時には、“神さま、どうぞ聖霊を私たちに与えてください”とお祈りをしましょう。そうすれば神さまは必ずみんなの上にも聖霊を与えてくださって、できないと思うこともできるようになります。どんなことでも乗り越えられるようにして下さいます。そのことを信じてこれからも神さまにお祈りをしながら、聖霊の力が与えられることを信じて毎日を過ごして参りましょう。祈りをします。

神さま、今日のペンテコステの礼拝を、大人と子供と一緒に守ることができてありがとうございます。私たちにはできないと思うことや困ったな

と思うことがたくさんありますけれども、どうぞ、そういうときには、あなたが聖霊を与えてくださって、私たちに力をお与えください。そして、これからも神さまのお恵みのもとに、私たちは一步一步、前に進んでいくことができますように、私たちのことを助けてください。

この祈りをイエスさまのお名前を通してみ前にお献げ致します。アーメン

讃美歌:417(聖霊によりて)

説教「聖霊に満たされて」

佃 雅之

今日、私たちは聖霊降臨日を記念して礼拝を献げています。キリストの言葉を信じ、祈り、待ち続けた弟子たちは、聖霊降臨によって教会としての歩みを始めます。『教会』と言う言葉は、新約聖書の書かれたギリシャ語では「エクレシア (ἐκκλησία)」と表現されます。エクレシアを辞書で引くと、「家庭から招き集められた人々の集まり」と書かれてありました。『教会』と言うのはキリストによって招き集められた者一人ひとりの存在を意味しています。今日の箇所にも、「一同が一つになって集まっている」とあります。キリストと出逢い弟子となった人たち、キリストに「わたしに従って来なさい」と言われて従ってきた弟子たちが集まっていました。彼らは集まって何をしていたのでしょうか？

彼らは祈りながら、復活されたキリストが語ってくださった父なる神が約束された聖霊を待っていました。弟子たちに聖霊が与えられるという約束は、今日の箇所の少し前、1:4以下に書かれています。「十字架の後三日目に甦って復活されたキリストは、弟子たちに、「エルサレムを離れず、前に私から聞いた、父の約束されたものを待ちなさい。ヨハネは水でバプテスマを授けたが、あなたがたは間もなく聖霊による洗礼バプテスマを授けられるからである。」と語って下さいました。このときの弟子たちは、まだ聖霊によるバプテスマ、つまり聖霊降臨の意味をよく分かってはいませんでした。キリストが十字架に磔にされたのは、僅か 50 日前のことです。自分たちがイエスの仲間だと知れたら、何をされるかわかりません。弟子たちの中には、「自分は神を冒し、キリストを見捨てて逃げ去った」という記憶が鮮明に残っている人もいたことでしょう。集まっていた一人ひとり、夫々に、畏れと後ろめたい思いがあったと思います。これから自分たちはどうなるのか、自分たちに何が起こるのか全くわからないまま、恐れと不安を抱えながらもキリストの約束を信じて弟子たちは、祈りながら待っていました。聖霊降臨はキリストが十字架に架かって下さり、三日目に復活して、40 日間弟子たちと共にいて下さり、天に昇り、神の右に座られて、約束された聖霊を御父から受けて注がれる出来事です。

聖霊降臨日の出来事は「五旬祭の日が来て」という言葉から始められます。原文を見ると「五旬祭の日が満たされた」と書かれています。聖霊が降るためには、時が満ちるまで待つことが必要です。それはつまり、「神が定められた時を待つ」と言うことです。日が満たされると、「突然、激しい風が吹いて来るような音が天から聞こえ、…家中に響き渡り、「そして、炎のような舌が分かれ分かれに現れ、一人一人の上にとどまった。」とあります。

この箇所にある「激しい風」、「炎のような舌」というのは、「私たちが支配する力を表している」と言われます。「風」は音を伴って私たちの耳を支配し、「炎」は「舌」となって口を支配するものです。また、「風」と「炎」は、「聖霊によって教会に与えられた神の言葉である」とも言われます。その言葉は「キリストが十字架に死なれたにも拘らず、復活された」という神の偉大な御業を宣べ伝える言葉であ

ります。風が吹き、炎が止まると、弟子たち「一同は聖霊に満たされ、“霊”が語らせるままに、夫々の言葉で」語りだすのです。

聖霊が降ると力を受けます。力を受ければ、その働きが分かります。私たち自身が聖霊によって動かされていくということです。私たちは、聖霊の導きを受けるまでは、神がどのようなお方であるのか知ることができません。命の主である神が分からないために神に背を向けて、自分がどこから来てどこへゆくのか、どこへ向かえばいいのかが分からない。そのために、聖霊を受ける前の弟子たちと同じように、怯えと後悔に縛られて滅びに向かう者であったのです。

しかし、今や私たちは、聖霊によって、私たち一人ひとりが、万物の創造者である神によって造られたものであることを知りました。しかも、私たち一人ひとりが、神の尊い作品であって、宝であって、かけがえのない神の子である、その神の霊が私たちにも降り、神に触れられて、私たちの心が神に向かって開かれるようになります。すべて聖霊の働きです。私たちが何か一生懸命学んだから、勉強したから、経験したからではありません。この時の弟子たちがそうでした。聖霊に満たされたなら、霊が語らせるままに語り出すのです。特別な教育を受けたわけではないガリラヤの漁師たちが様々な国の言葉で話し始めます。聖霊は一人ひとりに、その人の言葉で、その人がキリストから受け取った福音を語るができるようにして下さった、一人ひとりの賜物が生き生きと生かされる場所、それが教会だと言うことです。

信仰は、人から人へ伝えられていくものです。今、私たちに信仰が与えられているのは、聖霊降臨によって弟子たちが自分の言葉で福音を語り始めたからです。これが神のご計画、神が決断された宣教の仕方なのです。私たちが福音を信じたのは聞いたからです。聞いたのは宣べ伝えた人たちがいたからです。弟子たちは聖霊に満たされてイエスが救い主であることを語り続け、福音が広がって私たちにも届けられ、今日に至っています。

今日の箇所の前、1:8 で、「あなたがたの上に聖霊が降ると、あなたがたは力を受ける。そして、エルサレムばかりでなく、ユダヤとサマリアの全土で、また、地の果てに至るまで、わたしの証人となる。」とキリストは言われました。聖霊が降らなければ、福音を宣べ伝える力を得ることはできません。力を得ないなら証人となることはできないのです。キリスト教の解説者になることは誰にでもできるかもしれませんが。あるいは、キリスト教の信仰を持っているふりをすることはできるかもしれませんが。しかし、証人になることは難しいことです。証人になるということは、「キリストがその人の生活の一切の、すべての決定権を持つ」ということであるからです。

聖霊は、常に、私たちを守り導きますが、いいことばかりでなく、苦難をも告げることがあります。信仰者の生活は人間の思いではなく、聖霊が告げる神の思いに聞き従う生活です。聖霊が注がれると私たちは、主と一つの心、一つの思いに結ばれるようになっていきます。聖霊によって、私たちは、いついかなる時も、どのような所でも、神の子として生きることができる、神の子とされていることが分かるようになります。聖霊によって教会が生まれました。そして、教会が一つになるのも聖霊によります。人間の思いは常にバラバラです。同じ教会に連なっている、必ずしも同じではありません。けれども、私たちはバラバラでありながらも、多様でありながらも、聖霊によって、その違いを乗り越えて一つになることができます。それが、「一同が一つになって集まっている」礼拝の時です。

今日は『子どもの日、花の日』を覚えて全体礼拝を献げています。年齢や性別、生まれた場所やこれまでの境遇、すべて一切の分け隔てなくここに招き集められています。今日の日曜日まで過ごした日々は、この日の弟子たちのように、不安な日、迷う日、畏れを感じる日があったことと思います。私たちの日常には、悲しみも痛みも叫びもあるでしょう。神に思捨てられたかと思うような絶望的な嘆きがあった人もいるかもしれません。しかし、私たちの神は、人間の恥も、苦悩も、あらゆる限界も、行き詰まりも、すべて知っておられます。その神が、神ご自身である聖霊を私たちに与えて下さり、「わたしは、いつもあなた方と共にいる(マタ 26:20)」と言ってくださったのです。

畏れと不安をかかえた弟子たちは、「あなた方はまもなく、聖霊によるバプテスマを授けられる。あなた方の上に聖霊が下るとあなた方は力を受ける」とのキリストの約束を信じて一つになっていました。私たちも一つになって礼拝を献げたなら聖霊が降ります。聖霊によって私たちは神と心が通い合います。聖霊は、聖書では「神の息」でもあります。「神は、土の塵で人間を形づくり、その鼻に命の息を引き入れられた(創 2:7)」と告げられています。神との命の交わりの中に入れられているのです。神の息吹である聖霊は私たちの内に住んでくださっています。私たち一人ひとりが神の神殿なのです。ですから、私たちが生きていることは、主が生きていることでもあります。私たちが今、生かされているということが何よりの福音の証です。しかし、私たちは、誰も欠け多き罪人でもあります。罪は人間の心に分裂と対立を起こさせます。しかし、聖霊の導きにより、キリストと共に生きようとする心には一致が生まれます。

聖霊降臨日から2000年に及ぶ教会の歴史において、聖霊の導きに従わず人間の思いが横行した時、教会は争い、分裂し、墮落しました。しかし、その度毎に、聖霊が悔い改めへと導いて下さり、「父なる神の元に帰ろう」と働きかけて下さったのです。悔い改めた者に、一層聖霊は豊かに働きかけ、教会は新しく生まれ変わり、問題を抱えながらも今も歩み続けています。これは、私たちの教会の歴史にも同じことが言えるでしょう。教会を誕生させて、滅びることのないように、信仰を継承していく力は主にのみあります。私たちが信仰生活を続けることができるのは、自分の意思ではなく、聖霊の導きによるのです。聖霊は、私たちの内に働く見えざる神の力であります。家庭生活においても、日々心がキリストに向けられているなら、聖霊に満たされて、そのご家庭は豊かな祝福の場となることでしょう。

聖霊降臨日に弟子たちに贈られた聖霊は、今も私たちと共にあり、共に働いてくださっています。聖霊は今も、私たちの上に降り、日々私たちを導き、計り知れない大きな力を与え続けてくださっています。聖霊に満たされて、怯むことなく、躊躇うことなく、退くことなく、神の偉大な業を伝える教会として歩み行きましょう。

お祈り致します。

父、子、聖霊なる神さま。あなたが聖霊をくださり、教会が誕生し、今、私たちがその教会に連なる肢とされていますことを心から感謝いたします。

私たちが、これからも、互いに支え合って、御言葉に従い、歩むことができますように、私たち一人ひとりを、聖霊の力によって福音の証人となることができますよう導いてください。あなたの福音を、私たちを用いて伝えさせてください。

主イエス・キリストの聖名によって祈ります。アーメン。

讃美歌:こどもさんびか114(『21』470「やさしい目が」)

献金

感謝の讃美歌:65-2「今ささげる」

感謝の祈り:神さま、今日は礼拝に招いてくださってありがとうございます。みことばを感謝いたします。この一週間をイエスさまと共に歩ませてください。このお祈りをイエスさまのお名前をとおしておさげいたします。アーメン・ 主の祈り

派遣:讃美歌92「主よ、わたしたちの主よ」

祝福:主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、あなたがた一同と共にあるように。アーメン。

報告:長老会連絡:太田昌恵牧師7月まで休養。

後奏:「おおませ、汝、いのちの霊よ」(J.C.H.リンク)

